

**OLYMPUS**

# 2019年3月期 第1四半期 連結決算概況と通期見通し

2018年8月7日  
オリンパス株式会社  
取締役副社長執行役員 CFO  
竹内 康雄

## **免責事項**

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

## 第1四半期実績

- 連結：売上高は5%増収。損益は証券訴訟の和解金計上等により損失を計上
- 医療：増収増益。営業利益は2桁増益を達成
- 機関投資家との証券訴訟で和解が成立し、経営課題の一つが解決

## 通期業績見通し

- 証券訴訟の和解に伴う引当金等を計上し、各段階利益を修正

- 2019年3月期 第1四半期決算における主なポイント
- 第1四半期の連結実績
- 前年同期比：売上高は5%の増収
- 各段階損益は、7月31日の適時開示でお知らせした通り、機関投資家との証券訴訟で和解が成立し、190億円の引当金を計上したこと、本日の適時開示でお知らせした中国生産子会社に対する訴訟の判決に伴う引当金を35億円計上したことおよび、生産拠点再編費用54億円を計上したことにより減少し、損失を計上
- 医療事業：前年同期比で売上高は増収となり、営業利益は2桁増益を達成
- 機関投資家との証券訴訟は今回の和解によりすべて終了し、過去の損失計上先送りに係るリスクは大きく軽減
- 通期業績見通し
- 証券訴訟の和解に伴う引当金および、中国生産子会社に対する訴訟の引当金を計上したため、各段階利益の数字を修正

---

# 2019年3月期 第1四半期 連結業績および事業概況

## 2019年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況

- ① 主力の医療事業が牽引し、売上高は5%増収を達成
- ② 証券訴訟の和解に伴う引当金、中国生産子会社に対する訴訟の引当金等の計上により損失を計上

(単位：億円)	1Q実績 (4-6月)			
	2018年3月期	2019年3月期	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,718	1,806	+5%	+4%
売上総利益 (売上総利益率)	1,129 (65.7%)	1,183 (65.6%)	+5%	+4%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	995 (57.9%)	1,050 (58.2%)	+6%	+5%
その他の収益および費用等	▲7	▲250	-	-
営業損益 (営業利益率)	127 (7.4%)	▲116 (-)	-	-
税引前損益 (税引前利益率)	119 (6.9%)	▲147 (-)	-	-
親会社の所有者に帰属する当期損益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	101 (5.9%)	▲167 (-)	-	-
円/USドル	111円	109円		
円/Euro	122円	130円		

5 2018/8/7 No data copy/No data transfer permitted

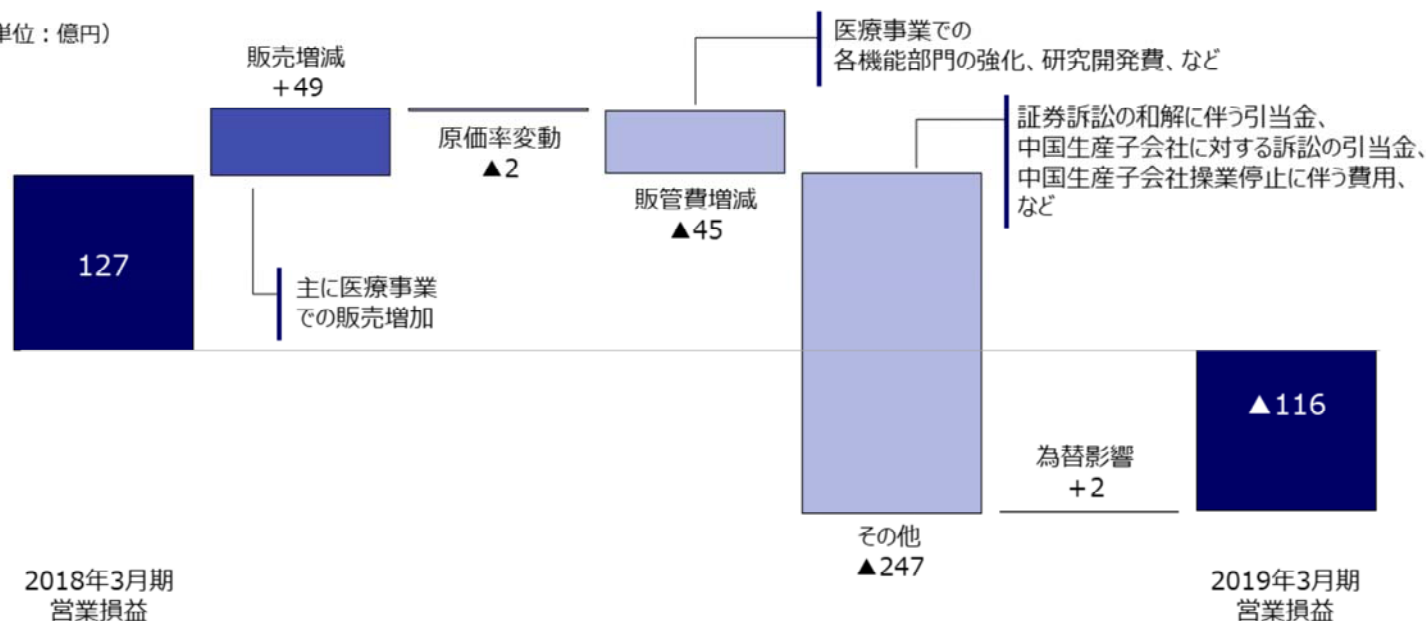
OLYMPUS

- 2019年3月期 第1四半期 連結実績
- 売上高は主力の医療事業が牽引し、前年同期比で5%増収の1,806億円
- 営業損益は、証券訴訟の和解に伴う引当金190億円、中国生産子会社に対する訴訟の引当金35億円および、生産拠点再編費用54億円を計上したことにより、116億円の損失を計上
- 税引前損益は、為替差損の計上に伴う金融収支の悪化などにより、147億円の損失を計上
- 当期損益は、167億円の損失を計上

## 2019年3月期 第1四半期実績 ①連結営業損益増減要因

### 第1四半期実績（4-6月）

(単位：億円)



- 営業利益の主な増減要因
- 販売増減：医療事業および科学事業で増収となった結果、49億円プラスに寄与
- 原価率変動：前年同期比で大きな変動なし
- 販管費増加：主に医療事業において、各機能部門の強化などにより、人員が増加したことおよび、次世代消化器内視鏡システムの研究開発費が増加したことによるもの
- その他：主に証券訴訟の和解に伴う引当金、中国生産子会社に対する訴訟の引当金、中国生産子会社操業停止に伴う費用等を計上したことによるもの
- 為替影響を加えた結果、営業利益は116億円の損失

## 2019年3月期 第1四半期実績 ②セグメント別概況

① 医療：全分野プラス成長を確保し、増収増益

② 映像：中国生産子会社操業停止に伴う費用計上等により、営業損失を計上

1Q実績(4-6月)

(単位：億円)		2018年3月期	2019年3月期	前年同期比	為替影響調整後
医療	売上高	1,344	1,439	+7%	+6%
	営業利益	232	274	+18%	+19%
科学	売上高	200	211	+6%	+5%
	営業利益	▲6	▲4	+2億円	+3億円
映像	売上高	151	139	▲8%	▲10%
	営業利益	9	▲58	▲67億円	▲71億円
その他	売上高	23	17	▲28%	▲28%
	営業利益	▲5	▲7	▲2億円	▲2億円
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	▲103	▲322	▲219	▲219
連結合計	売上高	1,718	1,806	+5%	+4%
	営業利益	127	▲116	▲243億円	▲245億円

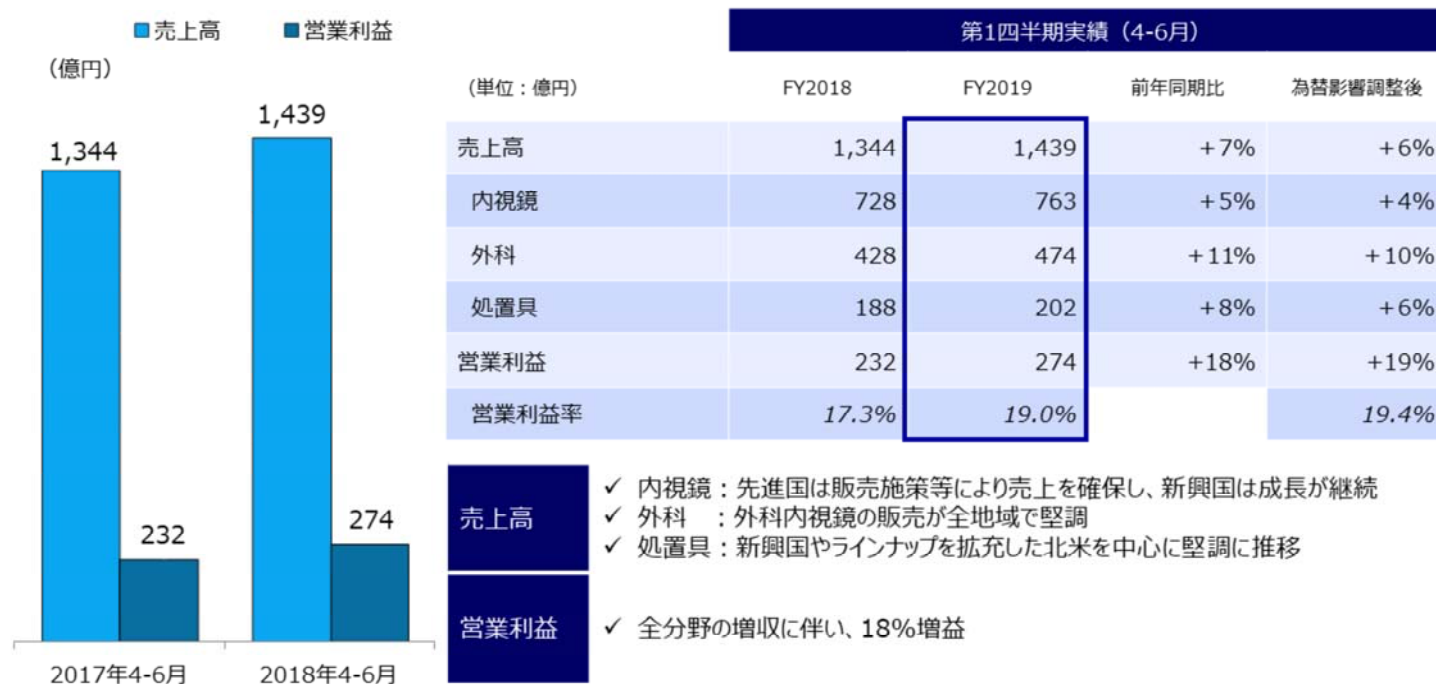
7 2018/8/7 No data copy/No data transfer permitted

OLYMPUS

- セグメント別の状況
- 医療事業は内視鏡、外科、処置具の全分野でプラス成長を確保し、増収増益
- 科学事業は特に産業製品の良好な市場環境を要因に増収となり、損益が改善
- 映像事業は減収となり、営業損益は、中国生産子会社の操業停止に伴う費用計上等により、損失を計上
- その他事業は、コンパクトカメラ向けのレンズユニットの外販を終了したこと等により減収となり、損失額が拡大
- 全社・消去には、証券訴訟の和解に伴う引当金および、中国生産子会社に対する訴訟の引当金が含まれる



## 2019年3月期 第1四半期実績 ③医療事業



8 2018/8/7 No data copy/No data transfer permitted

OLYMPUS

### ● 医療事業

- 売上高：内視鏡、外科、処置具の各分野で増収となり前年同期比7%増の1,439億円
- 営業利益：全分野での増収により、前年同期比18%増の274億円
- 営業利益率：前年同期比1.7ポイント改善し、19.0%



## 2019年3月期 第1四半期実績 ③医療事業

分野	地域	現地通貨別成長率			分野別の状況
		FY2018		FY2019	
		1Q	通期	1Q	
消化器内視鏡	日本	▲6%	▲2%	▲3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本：前期導入した新スコープの販売は好調である一方、低調な予算執行の影響を受け、前年並みの成長</li> <li>欧米：セールスプロモーションや保守を含めた販売が堅調に推移</li> <li>アジア・オセアニア：中国が好調を維持</li> </ul>
	北米	▲1%	+1%	+4%	
	欧州	▲6%	▲1%	+3%	
	豪亜	+13%	+10%	+8%	
	全地域	0%	+2%	+4%	
外科	日本	+3%	+9%	+11%	<ul style="list-style-type: none"> <li>日欧：「VISERA ELITE II」の拡販および、好調なエネルギーデバイスが売上に寄与</li> <li>北米：主力製品がライフサイクル後半であるものの、スコープの販売やISM社との連携効果による売上が堅調</li> </ul>
	北米	▲1%	+2%	+7%	
	欧州	+6%	+6%	+9%	
	豪亜	+18%	+10%	+13%	
	全地域	+4%	+6%	+10%	
処置具	日本	+8%	+7%	+2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>全地域でプラス成長を確保</li> <li>特にアジア・オセアニア、市場ニーズに沿った新製品を積極的に導入している北米が好調</li> </ul>
	北米	+5%	+4%	+10%	
	欧州	▲1%	+3%	+4%	
	豪亜	+23%	+16%	+9%	
	全地域	+7%	+7%	+6%	

9 2018/8/7 No data copy/No data transfer permitted

OLYMPUS

- 為替を除く実質ベースでの分野別の状況
- 消化器内視鏡分野：
  - 日本は低調な予算執行の影響を受けて、厳しい状況が続いているが、前期導入した経鼻内視鏡や大腸内視鏡は高い評価をいただいております、第2四半期以降、挽回できる見通し
  - 北米と欧州は、セールスプロモーションや保守を含めた販売施策の強化により、堅調に推移
  - アジア・オセアニアでは、中国の成長が継続
- 外科分野：
  - 日本と欧州は、好調な「ビセラ・エリート・ツー」および、エネルギーデバイスのサンダービートが売上に大きく寄与
  - 北米は、主力製品のライフサイクルが後半であるものの、スコープの販売やISM社との連携効果による売上が増加し、堅調に推移
- 処置具分野：
  - 全地域でプラス成長を確保
  - 特に北米は、市場ニーズに沿って積極的に導入している新製品が売上を伸ばしており、好調に推移

## 2019年3月期 第1四半期実績 ④科学事業



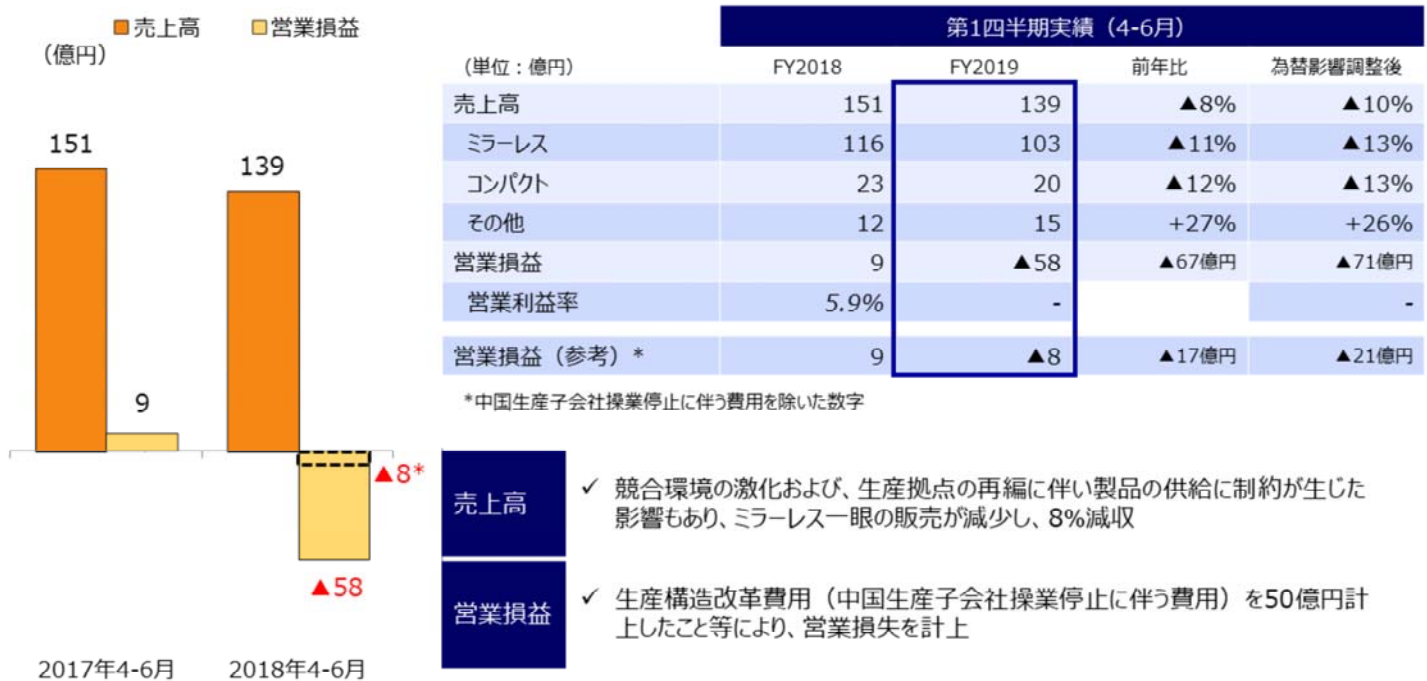
10 2018/8/7 No data copy/No data transfer permitted

OLYMPUS

### ● 科学事業

- 売上高：前年同期比6%増収の211億円
- 営業損益：前年同期の6億円の損失から2億円改善し、4億円の損失
- 生物顕微鏡、産業製品ともに堅調に推移したことから増収
- 特に、産業製品は半導体、電子部品、発電市場等の外部環境が良好であり、工業用顕微鏡や非破壊検査機器を中心に売上を伸ばした
- 営業損益は、売上の増加に伴い、損失額が縮小

## 2019年3月期 第1四半期実績 ⑤映像事業



11 2018/8/7 No data copy/No data transfer permitted

OLYMPUS

### ● 映像事業

- 売上高：前年同期比8%減の139億円
- 営業損益は：58億円の営業損失
- コンパクトカメラは、前年同期比12%の減収
- ミラーレス一眼は、競合環境の激化および、生産拠点の再編に伴い製品の供給に制約が生じた影響もあり、前年同期比11%の減収
- 営業損益は、中国生産子会社操業停止に伴う費用を50億円計上したことにより、58億円の損失を計上
- なお、営業損益（参考）には、製品の供給に制約が生じたことによる売上減少等の事業への影響は含んでいない
- 引き続き中国生産子会社操業停止の影響は残るものの、ベトナム生産子会社へのデジタルカメラの生産集約は順調に進んでいる
- これを確実に実行し、黒字化構造の確立に向けて、生産構造改革を推進していく

## 財政状態計算書

■ 当期損失\*167億円の計上、剰余金の配当により資本が減少し、自己資本比率は42.8%

(単位：億円)	2018年 3月末	2018年 6月末	増減額		2018年 3月末	2018年 6月末	増減額
流動資産	5,143	5,068	▲75	流動負債	3,059	3,557	+498
棚卸資産	1,393	1,464	+71	社債及び借入金	888	1,172	+284
非流動資産	4,644	4,752	+108	非流動負債	2,285	2,051	▲233
有形固定資産	1,682	1,712	+30	社債及び借入金	1,592	1,330	▲262
無形資産	734	768	+34	資本	4,443	4,211	▲231
のれん	972	1,007	+35	自己資本比率	45.2%	42.8%	▲2.4pt
資産 合計	9,787	9,820	+33	負債及び資本 合計	9,787	9,820	+33
				有利子負債：2,502億円（2018年3月末比+22億円）			

12 2018/8/7 No data copy / No data transfer permitted

\*親会社の所有者に帰属する当期損失

OLYMPUS

- 財政状態
- 自己資本は当期損失167億円の計上および、剰余金の配当により、前期末から231億円減少し、4,211億円
- 自己資本比率は前期末比で2.4ポイント低下し、42.8%
- 棚卸資産が71億円増加しているが、これは主に第2四半期以降の出荷に向けた在庫を構築している影響によるもの

## 連結キャッシュフロー計算書

- FCF：有形固定資産の取得および、Cybersonics社の事業取得に伴う支出があった一方、事業活動から創出される利益を中心に、前年同期比83億円増の77億円を確保

第1四半期実績

(単位：億円)	2018年3月期	2019年3月期	増減
売上高	1,718	1,806	+87
営業損益	127	▲116	▲243
営業利益率	7.4%	-	-
営業キャッシュフロー	201	250	+49
投資キャッシュフロー	▲208	▲174	+34
フリーキャッシュフロー	▲7	77	+83
財務キャッシュフロー	▲101	▲91	+10
現金及び現金同等物期末残高	1,901	1,899	▲2
減価償却費	125	143	+18
設備投資額	158	162	+4

13 2018/8/7 No data copy/No data transfer permitted

OLYMPUS

- キャッシュフローの状況
- 営業キャッシュフロー：医療事業を中心とした事業活動からの利益を中心に250億円
- 投資キャッシュフロー：医療事業のデモ・ローナー品等の有形固定資産取得による支出および、泌尿器科ビジネス強化のため、Cybersonics社の尿路結石治療機器に関連する事業を取得したこと等により、174億円のマイナス
- フリーキャッシュフロー：77億円のプラスを確保

---

## 2019年3月期 通期業績見通し



## 通期見通し ①連結業績

- 証券訴訟の和解に伴う引当金、中国生産子会社に対する訴訟の引当金を計上し、各段階利益を下方修正
- 上記費用計上を除き、前回公表数値を据え置き

(単位：億円)	2019年3月期 5月11日公表見通し	2019年3月期 (最新見通し)	増減	前回見通し比	2018年3月期
売上高	8,000	8,000	0	0%	7,865
売上総利益 (売上総利益率)	5,270 (65.9%)	5,270 (65.9%)	0	0%	5,105 (64.9%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,380 (54.8%)	4,380 (54.8%)	0	0%	4,266 (54.2%)
その他の収益および費用等	▲80	▲310	-	-	▲29
営業利益 (営業利益率)	810 (10.1%)	580 (7.3%)	▲230	▲28%	810 (10.3%)
税引前利益 (税引前利益率)	760 (9.5%)	530 (6.6%)	▲230	▲30%	767 (9.7%)
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	590 (7.4%)	400 (5.0%)	▲190	▲32%	571 (7.3%)
EPS	173円	117円			
円/USドル	105円	106円	+1円(円安)		
円/Euro	130円	130円	-		
					<b>2019年3月期配当</b>
					年間配当30円を予定 (変更なし)

15 2018/8/7 No data copy/No data transfer permitted

OLYMPUS

- 通期見通し
- その他の費用に証券訴訟の和解に伴う引当金および、中国生産子会社に対する訴訟の引当金を計上したことにより、各段階利益を下方修正
- 為替レートについては、第2四半期以降の前提は期初と変わらないものの、第1四半期の実績を反映し、通期で1ドル106円、1ユーロ130円を想定
- 売上高：5月に公表した数値から、変更なし
- 営業利益、税引前利益：それぞれ230億円下方修正
- 当期利益：証券訴訟引当金計上の税効果を見込み、190億円下方修正し、400億円となる見通し
- 配当：期初の配当予想を据え置き、2019年3月期、年間配当として1株当たり30円を予定



## 通期見通し ②セグメント別業績

- 各事業セグメントの売上高、営業利益は5月に公表した数字から変更なし
- 全社・消去に証券訴訟の和解に伴う引当金等を織り込み、連結営業利益は下方修正

(単位：億円)		2019年3月期 5月11日公表見通し	2019年3月期 最新見通し	増減額	前回見通し比
医療	売上高	6,340	6,340	-	-
	営業利益	1,350	1,350	-	-
科学	売上高	1,000	1,000	-	-
	営業利益	70	70	-	-
映像	売上高	600	600	-	-
	営業利益	▲70	▲70	-	-
その他	売上高	60	60	-	-
	営業利益	▲60	▲60	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	▲480	▲710	▲230	▲230
合計	売上高	8,000	8,000	-	-
	営業利益	810	580	▲230	▲28%

OLYMPUS

16 2018/8/7 No data copy/No data transfer permitted

- セグメント別の業績見通し
- 各事業セグメントの売上高、営業利益は5月に公表した数字から変更なし
- 全社・消去に証券訴訟の和解に伴う引当金および、中国生産子会社に対する訴訟の引当金が含まれており、連結営業利益を下方修正

---

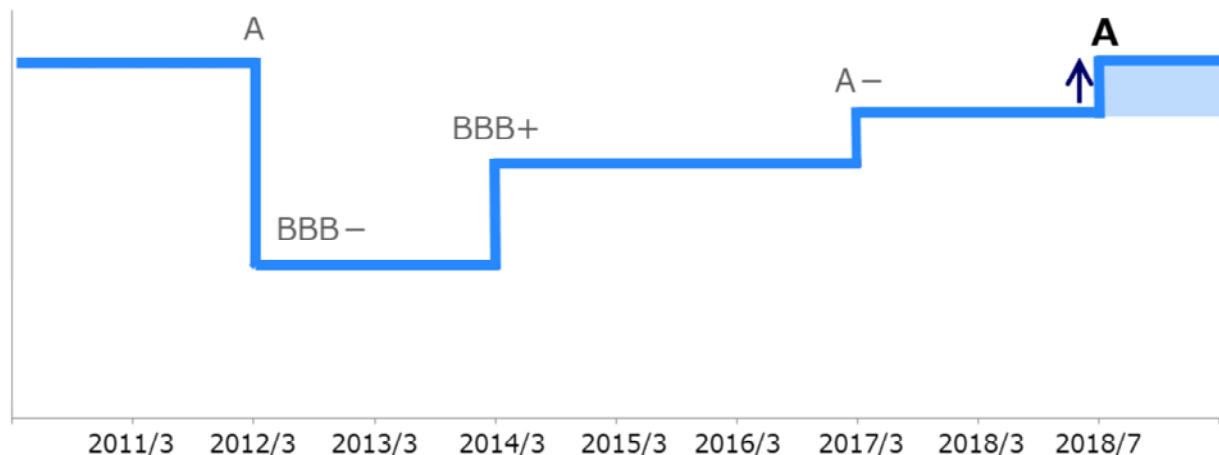
## 第1四半期 トピックス

## トピックス 格付引き上げ

### 格付投資情報センター（R&I）が当社の発行体格付を「A-」→「A」に引き上げ（7月23日）

#### ■ 格付評価のポイント（R&Iニュースリリースより）

- 世界シェア7割の消化器内視鏡を中心に主力事業の競争力が安定している
- 利益の蓄積と債務の圧縮で、財務バランスは継続的に改善している
- コーポレートガバナンス、医療事業の品質・法規制対応の実効性について、経営の安定性は以前より増している



18 2018/8/7 No data copy/No data transfer permitted

OLYMPUS

- 7月23日に、格付投資情報センター（R&I）による当社発行体格付けが、シングルAに引き上げ
- これは、消化器内視鏡を中心とした医療事業の安定した競争力、有利子負債削減や自己資本の充実などの継続的な財務体質改善、コーポレートガバナンスの強化などの取り組みが評価された結果
- この格付け取得により、資金調達手段の多様化を図り、今後の成長に向けた投資をさらに強化していく

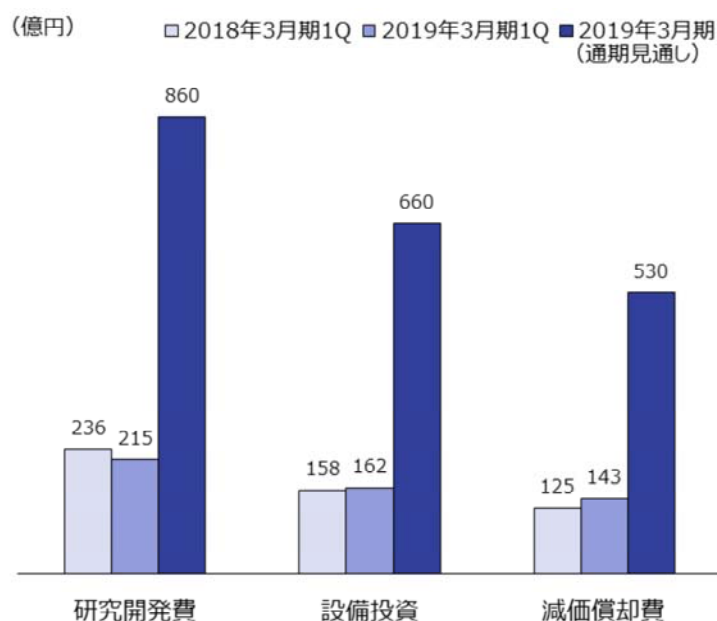
**OLYMPUS**

---

# Appendix

## 【参考資料】投資等（研究開発費、設備投資、減価償却費）

### 1Q実績および通期見通し



### 研究開発費詳細

(単位：億円)

	FY2018(*1)	FY2019	
	1Q	1Q	通期見通し
研究開発費 (対売上高比率)	236 (13.7%)	215 (11.9%)	860 (10.8%)

### ご参考

(単位：億円)

	FY2018	FY2019	
	1Q	1Q	通期見通し
開発費資産化(*2)	32	24	120
償却費	15	17	

	2018年3月末	2018年6月末
開発資産残高	325	332

- (\*1) 全子会社で親会社と同様の発生基準に統一したベース  
 (\*2) 開発費資産化の数値は上段の研究開発費に含まれています

OLYMPUS